

林原美術館特別展『すべて魅せます 平家物語絵巻』における調査

林直保子¹

林原美術館の特別展「すべて魅せます 平家物語絵巻」は、PART I「源平の争乱」（2015年7月18日～8月23日）、PART II「悲運の女性・武将」（2015年8月25～9月23日）という構成で開催された。会期中、同特別展において、林原美術館と関西大学の共同研究の成果である「平家物語絵巻」巻十一の超高精細デジタル画像を、大型ディスプレイとA3サイズタッチパネルで展示した（写真1、写真2）。大型ディスプレイによる展示は、手元のタッチパネルによりディスプレイに映る映像を鑑賞者が自由に操作できるように設定されていた²。

写真1 大型ディスプレイによる展示



写真2 A3タッチパネルによる展示



関西大学地域文化・芸術資源可視化研究プロジェクト（VOLCANOプロジェクト）では、各PARTの開催に先立ち、関西大学地域連携センターのメーリングリストを通じて「無料招待券」の希望者を募集し、希望者100枚の招待券（1枚で2名まで利用可）を送付した³。そして、特別展開催中にその「無料招待券」を持参した来館者に調査票を手渡し、鑑賞後に受付で記入済みの調査票を回収した。PART Iでは51名（男性26名、女性24名、不明1名、平均年齢62.4歳）、PART IIでは、48名（男性22名、女性25名、不明1名、平均年齢61.2歳）から回答を得た。

「今回の展示で最も印象に残った展示は何でしょうか？一言でも結構ですので、お聞かせ

¹ 関西大学社会学部教授

² 画像の操作のソフトウェアは、日立製作所による「名画ナビゲーション・システム」を用いた。

³ このメーリングリストは、過去の公開講座等の参加者を対象に、イベント告知を行うことを目的としたものである。

ください」という自由記述形式の質問に対し、PART Iで46名、PART IIで36名の方に回答いただいた。自由記述をもとに、筆者がカテゴリ化した結果を表1に示した。「一之谷」や「那須与一」といった場面を挙げていただいた場合には、「具体的な場面」にカテゴリ化した。平家物語絵巻の作品の美しさ物語の名場面、展示室内の展示全体を挙げた回答者が多かったが、絵巻のデジタル展示が印象に残ったとした回答も多く見られた。デジタル展示は展示室の外にあるラウンジと通路に設置されており、展示室を出てそのまま出口へ向かった来館者は、デジタル展示に気づかなかつたり、気に留めなかつたりした可能性も高い。このことを考慮すると、デジタル展示は来場者の興味を少なからず引くものであったと言える。

表1 印象に残った展示

	全巻が展示されている・全部観られる	絵の鮮やかさ・あでやか・細やかさ・美しさ	展示全体が素晴らしい	文字(詞書)	解説	具体的な場面	超高精細デジタル展示	絵巻き以外の具体的な展示(能面・屏風など)	その他の回答(「ゆっくりみた」など)
PART I	3	8	10	4	2	3	11	6	4
PART II	0	11	4	2	3	8	8	8	0

「今回の特別展にご来場いただき、感じたこと、気づいたことなどお聞かせください。」という自由記述形式の質問に対し、PART I、PART IIで計21名の方が、(超高精細)デジタル展示に対しポジティブな評価をしており、「デジタル化を継続してほしい」、「デジタル展示を常設化してほしい」といった意見も見られた。また、デジタル展示に言及した回答者のうち4名の方が、「グランフロント大阪でのデジタル展示⁴を鑑賞し、興味をもったので本物の絵巻を鑑賞しに来場した」と回答していた。

上で述べたように、無料招待券を送付したのは、過去に関西大学の公開講座等に参加したことのある一般市民の方々であり、基本的には大阪近辺にお住まいの方々である。これらの方々が林原美術館の展示を訪れるためには、新幹線を使っても片道1時間ほど、自動車でも片道2時間半ほどをかけて移動する必要がある。また、展示の招待券を持参しても、これらの移動にかかる交通費は来場者自身が負担する必要がある。それにもかかわらず、各PARTで50名前後の来場者があり、これらの方々が貴重な平家物語絵巻を鑑賞することができたこと、さらには大学と美術館の共同で実現したデジタル展示を鑑賞いただく機会を提供できたことに、大きな意味があったと考えている。

⁴ 平成26年5月29日から6月1日にかけて、グランフロント大阪にて、ビュジュアリゼーション・ラボラトリー大阪、関西大学・VOLCANOプロジェクトおよびなにわ大阪研究センター設立準備室の主催、林原美術館の共催で開催したデジタル展示「淀川今昔明日物語Ⅲ」を指している。